

(様式第1号)

## 自己評価及び外部評価結果票

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170500021		
法人名	社会福祉法人 鶴丸会		
事業所名	グループホーム・ユートピア		
所在地	伊万里市大川町大川野字赤坂1647番地		
自己評価作成日	平成22年11月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigojohou-saga.jp/kaigosip/Top.do">http://www.kaigojohou-saga.jp/kaigosip/Top.do</a>
-------------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成22年12月15日	外部評価確定日	平成23年1月11日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症高齢者の方々が共同居住形態の場において、介護を受けながら各自ができる範囲で、介護者と共に食事の支度・掃除等を行い家庭的な雰囲気の中で共同生活を送り、一人一人が自立を目指していくホームです。

<理念> ありのままに穏やかに！ ゆったりと楽しく自由に！ 残された力で暮らしの喜びと自由を！

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

周囲を田園に囲まれ車の通りも少なく静かな環境の中にあるホームである。ホールは、床暖房が整備され、ウォーキングの方向を示すテープを貼り付けて、運動意欲の向上につなげるなど、それぞれの工夫がなされている。隣り合わせのデイサービスとは行事などの折に行き来されている。またホールを中心として周囲は居室や畳の談話室があり、入居者は自由なゆったりとした空間の中で見守られている。

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々の介護の中で管理者とスタッフが意見交換を重ね『自信と喜びを感じてもらう』生活の支援が行われている。	共有スペースのホール内にも掲示されている理念は、毎日申し送りの前に唱和されている。また、振り返りシートを作成し、日々のケアの中で理念に基づいて振り返り、日々のケアにも反映されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・1月・鬼火焚き見学 ・8月・夏祭り参加 ・施設広報を全世帯へ配布している。	散歩コースでは、日常の挨拶を交わしたり、自治会に加入し、地区の行事である鬼火焚きや夏祭りなどに参加している。また、事業所便りを地区の所帯へ配布するなど関わりを深める努力がなされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議のメンバーに年々地域住民の方が増えてきて、地区とのつながりがもちやすくなった。 農道を散歩する際は車の往来に配慮してもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では利用者の状況報告・行事などの説明、意見交換を行いサービスの実践に役立てている。	運営推進会議には、利用者の家族や市の担当職員、地域の住民、区長などが参加され、2ヶ月毎に開催されている。議事録も詳細に作成され、運営推進会議で出された意見は、皆で話し合いサービスの向上に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に出席された際、色々な意見を聞いたり、指導していただいている。	運営推進会議のメンバーでもあり、意見を聞いたり相談事にも応じ、実直に対応できる連携ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関や窓の施錠はしておらず、身体的拘束をしないよう実践している。やむ得ないとき、ご家族に同意をもらっている。	入居時に身体拘束について説明し、止むを得ず拘束が必要となった場合は、家族の同意を得るようにしている。玄関などの施錠はせず、全職員が入居者の癖や傾向を掴み、さりげない見守りを徹底し、安全面に配慮し支えるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議で話し合いをしたり、研修などにも参加している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修で受講したり、施設内での勉強会を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居申込みの際、十分な説明を行い、施設内見学をしていただき、契約してもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・玄関に意見箱を設置している。</li> <li>・運営推進会議の際、家族代表者からは色々な意見が出され参考にしている。</li> </ul>	家族会はないが、家族の面会時や運営推進会議などで、意見や要望を尋ねるようにしている。また施設内に苦情窓口として玄関に意見箱を設置し、出された内容に対しては、速やかに話し合い、対応に心がけている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月全体会議・スタッフミーティングを設け、意見を出してもらい反映させている。</li> </ul>	毎月の管理者を含む全体会議、それに続くスタッフミーティングは自由に意見が述べられる雰囲気となっている。入居者の状況はもとより、事業所内の業務の改善など細かいところまで幅広い意見が出され、日々の業務についても改善されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員全員が勤務時間帯を利用して、研修に行けるようにして、質の向上に努めている。</li> </ul>		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員全員が順番で様々な研修を受けられるように努力している。</li> </ul>		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国認知症グループホーム協会佐賀県支部に加入し、他のグループホームと交流を持つことで、サービスの質の向上を目指している。</li> </ul>		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・なるべく利用者と会話して、スタッフに心を開いてもらい、そこから不安な事・要望をとらえている。、又、ご家族から聞くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・ご家族との初期面談時に出来るだけ詳しく話を聞くようにしている。ご家族が安心できるような言葉かけを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・入居前の十分な聞き取りと、入居して一週間は本人のことを十分観察し、サービスを検討している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・掃除をしたり全ての活動などは職員を入居者が一緒に行っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・面会時・電話などで頻回に話をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・本人からの訴えなどはないが・・・馴染みの場所は会話の中から知り、ドライブなどを行っている。	入居後もこれまでの生活の延長線上であると考え、支援する体制が出来ている。職員は入居者との会話から馴染みの場所を知りドライブへ連れ出したり、元の住まい近くへ出掛けるなど出来る限りの支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・レクリエーションには全員参加されている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・退居後の状況などは、家族に会った時に聞いたり、入院されている時は病院、訪問などを行い様子を見ている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	・自発的に思いを訴えられる人はいない為、家族に尋ねる事が多い。	自らの思いを伝える入居者は少ないが、入居後もこれまでの生活の延長線上であると考え、関わりの中で表情から推し測ったり、行動から汲み取ったりしている。また、家族からも来所時に情報を得るよう努力している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・生活歴や馴染みの暮らし方については、入居時に家族・本人に詳しく尋ねている。分からない時がある場合は来訪時尋ねている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・残存機能の活用を重視し、一人一人の状態に合わせた支援をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・職員間で十分な話し合いを行い家族への聞き取りもしている。	家族からの聞き取りを基に職員全体での話し合い入居者主体の計画となっている。また見直しは設定期間にとられず、本人に変化が生じた場合には、職員全員でカンファレンスを行い臨機応変に行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・ケース記録を通じて共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・入居時・退居時には、居宅介護支援事業所に協力してもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・警察・消防署にも広報を配布している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・本人のかかりつけ医を重視しているが、当施設の協力病院を希望される方が多い。	事業所の協力医のほか、入居前からのかかりつけ医や希望の病院への受診を支援している。家族の同行が難しい時は通院介助も行っている。その場合、受診結果等は当日中に管理者より家族へ報告されている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・当施設に看護職員はいない為、日中は隣接しているデイサービスの看護師に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院時は頻回に面会に行き、ソーシャルワーカーの方へ相談している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・重度化する前の早い段階で医療機関へ相談するようにしている。	重度化や終末期に向けた方針は、入居契約時重要事項の説明と共に説明がなされているが、病状の悪化と共に医療機関での対応を主体としているため体制は整っておらず、難しい現状である。また看取りの要望はないが、今後は入居者や家族の意向を汲み取りながら体制も整えていく考えを持っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・救急処置の研修や資格取得を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・月に一度の会議の時に避難訓練を実施している。 ・2回/年のユートピア合同防災訓練と3回/年のグループホームの避難訓練を実施している。	毎月の会議の折に、入居者と共に地域の住民、消防署の協力を得て、夜間も想定し避難訓練を行っている。災害連絡網も整備され、家族に災害時の避難場所も伝えられている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・個々の人格を十分に尊重し支援している。	入居者の人格を尊重し、援助が必要な時もさりげないケアを心掛けている。また、事業所内や外への便りなどに掲載されるスナップ写真や名前などには家族の了承を得るなどして個人情報やプライバシーにも配慮されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・レクリエーションでは本人が希望される事を聞いたり、読書では自分で選んで頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・その人らしい生活を支援できる様努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・季節・気温に応じた衣類を、その人に似合ったおしゃれで支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・食事に関しては全員の方がほぼ毎日完食され心配はない。手伝いに関しては、時々参加してもらっている。	季節の物を取り入れるよう一緒に食材の買い物に行ったり、慣れた仕草での手伝いがある。「いただきます」や「ごちそうさま」の声かけする当番者を決め、和やかな雰囲気となっている。時々外食に出かけ、それぞれ嗜好に合った食事を楽しむことが出来るよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・栄養に関しては、毎食の食材を多種類使っている。 ・水分に関しても、十分摂取している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後、全員に口腔ケアを確実にを行い、自分で出来るところをして頂き、不十分な部分は職員が声かけを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	・排泄チェック表をつけている為、個々の排泄パターンを把握している。	排泄チェック表により本人の生活リズムを全職員が把握し、室内にはポータブルトイレの設置もなく、昼夜とも排泄誘導が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・なるべく薬にたよらず、食事・水分・運動にて排泄を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	・一日おきに入浴して頂き、発汗汚染時にも対応している。 ・温泉水を入れ楽しんでもらっている。	事業所方針で一日置きに午後の時間帯の入浴としているが、本人の希望があつたり汗をかいた時など必要に応じてシャワー浴も含め臨機応変に対応している。温泉水の入浴は好評であり、仲の良い方同士の入浴もあつたりと、拒む入居者は殆どいない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・本人が眠くなるまで、リビングと和室で過ごしてもらっている。強制する事はない。 部屋の温度調節・寝具の清潔を保っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・薬情報綴りを共有し理解してもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・毎日の生活の中で個々の希望する事をやってもらえるよう支援している。 (掃除・草むしり・読書・縫い物など)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・天気が良い日は近くに散歩へ出掛けたり、買い物したり、ドライブを行っています。	天気の良い日は近所への散歩などに出かけ、五感の刺激となっている。周辺の散歩道は区長から回覧板などを通じ、車の徐行と歩行者(入居者)への注意が促され地域住民の方の協力を得ている。	



自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・買い物レクリエーションや外出時に好きな物を選んでいただき、支払いはスタッフが一緒にしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・本人が希望される際は支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・共有空間には、季節の花を飾ったり、その月の作品を置き、音や光には配慮している。	玄関には季節の置物や合作である貼り絵などが飾られている。また、建物中央にあるホールでは手作りの日めくりカレンダーが掛けられている。床暖房で程よい暖かさで天窓からの自然光も心地よい。このホールで入居者は一日大半をのんびり、ゆったりと過ごしている。トイレなどもきれいに清掃され臭気もない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・和室・廊下・談話コーナーへ自由に行き、テレビを観たり、会話したりされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・基本的には、居室に何でも置いて良いことになっているが、あまり持参される方がいない。写真など持って来られる人もおられる。	ベッドと整理ダンスは備え付けで、他に馴染みの物を持ち込むことに制限はない。壁の飾りなども本人の好みに応じて行われ、居心地の良さに配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・トイレには大きく「便所」の貼り紙をして、自室も分かりやすいように本人の写真などを貼り名前をつけている。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目))(事業所記入)  
 ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。  (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。  (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。  (参考項目:38)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。  (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。  (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。  (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない